

災害時にすべきこと

① みんなで力を合わせて救出・救護活動

もしも大きな地震が起きたときには、自主防災組織を中心に、地域の住民が協力して被害を最小限に留める努力が重要となります。

災害の発生直後は、消火・出火の防止活動が重要です。初期消火の実施により、火事による二次被害を防げます。火元の確認、電源ブレーカーの遮断などを各家庭に伝えることにより、倒壊した家屋などからの出火を防げます。

救出・救護活動も、地域の住民が自ら協力して取り組む必要があります。高齢者や要援護者などの救出を進めるとともに、在宅治療者などについては医療機器や薬も忘れずに持ち出しましょう。各家庭の救出状況も確認し、救出もれないようにしましょう。また、けがをした人には、応急手当を実施します。



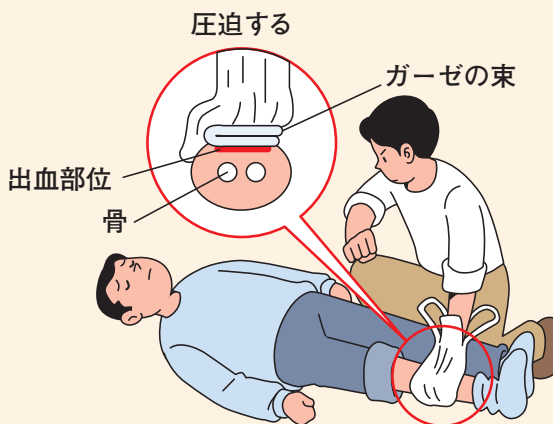
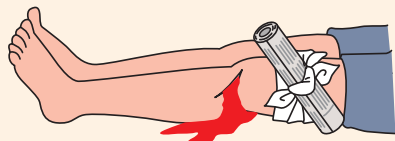
② 覚えておきたい応急手当

<大出血時の止血法>

一般に、体内の血液の20%が急速に失われると出血性ショックという重い状態になり、30%を失うと生命に危険を及ぼすといわれています。出血量が多いときには、止血手当を迅速に行う必要があります。大出血の止血法は、出血部位を直接圧迫する直接圧迫止血法が基本となります。

- 出血部位を圧迫し、包帯をする
- きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫する
- 片手で圧迫しても止血できないときは、両手で体重を乗せながら圧迫止血をする

※感染防止のため血液に直接触れないよう注意する
※ビニール・ゴム手袋の利用。なければ、ビニールの買物袋などを利用



<骨折に対する応急手当>

骨折しているところを固定

- 骨折しているところを支える
- 副子を当てる
- 骨折部を三角巾などで固定する

※副子は、骨折部の上下の間接が固定できる長さのものを準備する
※固定するときは、傷病者に知らせってから固定する
※ショックに注意する

